

小川 de カエルカフェ

高萩登志子

1. カエルカフェに至った経緯

小川をもっとたのしいところに！

小川にはカフェが少ない

コーヒー好きのわたしが解決

小川らしいカフェって？

小川といえばカエルの詩人・草野心平

小川にカエルカフェをつくろう！

2. カエルカフェの特徴

小川町の地域資源であるカエルを生かし、カエルでお客さまを“出むカエル”。
いろいろなものがカエル。たとえば……

●皿がカエル



●カエル小物も多数



●スイーツもカエルカラー



3. ターゲットへのアプローチ

ターゲット	ニーズ	アプローチ
平、好間、内郷など車で30分圏内に住む女性 ・年齢 40～60代 ・人数 約33,000人	・居心地のよさ ・おいしさ	・カエルを多用しつつも落ち着いた雰囲気 ・料理の先生とメニュー考案
小川町在住の女性 ・年齢 40～60代 ・人数 約1,500人	・友達と過ごす場所 ・非日常性	・くつろげる雰囲気づくり ・家庭ではつくらないようなメニューの提供
観光客 ・ニッポン山登山客 ・国道399号線の利用者 (ハイカー、ドライブ客)	・登山後やツーリングの休憩 ・情報収集	・立て看板による誘客 ・靴の脱ぐ&履くに便利なイスや履き心地のいいスリッパを用意 ・小川町、いわき市、近隣町村の情報紙類を完備
全国のカエル好き	・カエル	・SNS等を利用した情報発信、関係性構築

4. 客単価など

- 席数：16席
- 営業日数：週5日
- 営業時間：9時～17時
- 客単価：900円
- 客数：平日16名、休日40名
- 人員体制：平日ワンオペレーション、休日のみプラス1名

5. カエルカフェの強み

- 新規性：小川で初のカエル店舗
- 優位性：カエルの生体も多い地域。カエルの詩人・草野心平のふるさと
- 将来性：国道399号線のトンネル開通により、カエルで村おこしを推進する川内村との往来が容易に。カエルで連携の可能性

6. 将来的なビジョン

- 名所化：「小川といえばカエルカフェ」と認知されることを目指す
- コンテンツ化：カエルイベントを実現し、継続する
- カエルロード化：国道399号線をカエルで盛り上げる



福島の将来を担う

「ギネス世界記録」挑戦者を発掘したい！

メンバー：酒部 美希

プロジェクト立案に至った企画者の思い・背景

若年層の流出により地域の将来を悲観する住民の声を聞き、この企画を立案した。

社会的背景・課題

原発事故の影響で若年層の流出が続き、県内では極端な高齢化が進む。
そのため、地域の将来を担うリーダーが不足している。

ターゲット・ニーズ（具体的事例等を交えて）

南相馬では、「将来の農業再生を担う相馬農業高校の生徒に、ギネス世界記録に挑戦させたい」と、市民団体から依頼を受けた。

将来的なビジョン・目的・目標

「ギネス世界記録」挑戦を通じて地域の次世代リーダーを育成。
福島県内全59市町村で実施する。

解決策・事業概要

「ギネス世界記録」に挑戦することで、地域の課題に気づき、数々の困難を乗り越え、これ以上ない成功体験をすることで、次世代のリーダーを育成できる。
本事業は、ギネス挑戦のコンサルティングをすることで、地域の次世代リーダー育成を支援する。

事業モデル図



プロジェクトの特徴（社会的意義・波及効果・新規性等）

高齢化が極端に進む福島で、将来に対する不安を取り除くことができる。次世代リーダーの育成法として、ギネス世界記録に挑戦する例は他にない。

進める上での課題・協力をいただきたいこと

事業モデルは完成しているが、「ギネス世界記録」挑戦者が不足している。
そのため、挑戦者の発掘にご協力をお願いしたい。

放課後等デイサービスから社会との繋がりを作る 株式会社あんど 代表取締役 田子 恵子

プロジェクト立案に至った企画者の思い・背景

私自身が目に見える障害、目に見えない障害を持っている家族環境で暮らしてきていました。その事でいじめにあったり、不登校になったりしました。もっと障害を持っている家族の事を話せる環境があれば良かったのに。自分だけじゃなく家族も肯定される場所が欲しい。そんな思いから、この事業を作っていきたく思うに至りました。

社会的背景・課題

社会) 潜在的な障害者への接点不足・理解不足による不安
 支援機関) 障害の遺伝や、認識不足による社会支援が届かない
 障害者家族) 障害の有無による、収入格差

ターゲット・ニーズ (具体的事例等を交えて)

ターゲット①特別支援学級の生徒

小学生	中学生	合計	必要事業所数
331	149	480	48*

ターゲット②病気以外の不登校児

小学生	中学生	合計	必要事業所数
37	239	276	28*

いわき市教育委員会 平成29年度データ

*一つの事業所では10人までが預かり

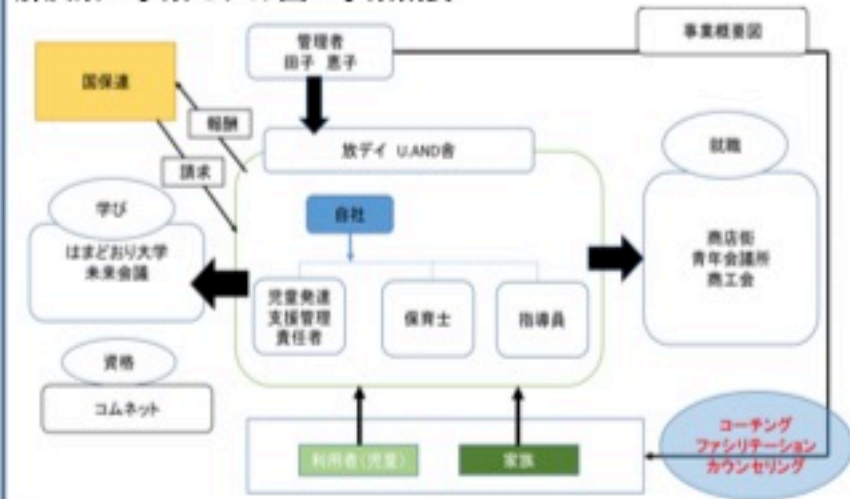
現在の事業所数17か所

事業所数不足に加え、高校生のデータが公開されていない上に居場所がない事。また、いわき市湯本には、小学校～高校まである立地である事。いわき市は公共の交通手段を利用する事が多い事。駅前立地である事。地域との関りで地域全体のコミュニティー向上。など、事業のニーズはあると確信しています。

将来的なビジョン・目的・目標

子供のサポートを通し、親・地域・社会を支える放課後等デイサービス

解決策・事業モデル図・事業概要



プロジェクトの特徴 (社会的意義・波及効果・新規性等)

OB人材 (後期高齢者) の積極的採用
 介護保険制度による利用料金の利用者負担額軽減
 協力団体連携による就職の増加

進める上での課題・協力をいただきたいこと

協力者募集
 事業所で働ける方、急募!!!
 運営サポーター募集中です!
 他事業所との連携体制構築の手助け
 就職先や、各種イベント連携先募集

福島田んぼアートプロジェクト 市川英樹

プロジェクトへの思い

昨年、田んぼアートが皆様のおかげで実現できました。
仲間も増え本当に皆さんへ感謝いたします。

田んぼアートのロゴを”いわきFC”にしたことで、
いわきの方々はじめ県内外からも多くの人が見学に来ていただき、
田植え、稲刈り、収穫祭へ参加してもらいました。

田んぼアートのすばらしさを伝えることができました。

今年さらにステップアップし、今年夏に再開する「Jヴィレッジ」の近くでも、
田んぼアートを実施します。

2020オリンピックまでに、浜通りの観光の一つとして
さらなる発展をとげていきたいと考えてます。



プロジェクトの特徴

①場所はいわき四倉
「ワンダーファーム」
と「Jヴィレッジ」
近くの田んぼにも
規模を拡大！



②最先端技術ドローンやイルミネーション、ライブ
BBQなど、田んぼアートを場として活用した、
様々な世代が楽しめるプログラムを開発！

③とれたお米は雑穀エキスパートと商品開発中！

事業モデル図



将来的なビジョン・目的・目標 「2020オリンピックの年に浜通りに30万人集客！」

⇒ 浜通りで田んぼアートを拡大することにより観光誘致、営農再開、移住促進につなげたいと思います。

もーもー🌻ガーデン事業化

🌿もー達がMOWする保全空間🌿 谷 咲月

プロジェクト立案に至った企画者の背景・思い

立入制限の多い地域ゆえに、被災した動物を生き、荒れる農地を保全したいというニーズが大きく、双方を合わせて、エコに農地を保全してきた。制約の多い所だからこそ、省力的な次世代自給自足モデルを生み出す必要があるし、生み出せると確信している。

社会的背景・課題

避難指示後手付かずの帰還困難区域では、景観悪化・山林化が進行し、野生動物や病害虫の大繁殖、火災や犯罪の発生が問題となっている。人の激減した地域で、省力的に、多くの人に参加できる形で地域環境を改善・保全していくことが求められている。

ターゲット・ニーズ（具体的事例等を交えて）

ターゲット：

地主・町民・遠方の人（帰還の可否を問わず）

ニーズ：

農地の山林化・荒廃化を抑止し、地域環境を保全したい。
動物を生（活）かしたい。新しいモデルを生み出したい。

将来的なビジョン・目的・目標

目的：人も動物も自然も生き生きと輝く仕組みを生み出す。

目標：

- ・ Mowingで収益事業化（遠隔でも関われる仕組み作り）
- ・ 観光化に向け整備し、2020年を目途に海外発信。
- ・ 2030年までにIT化も含め、省力的自給自足モデルを確立

解決策・事業概要

Mowing：動物の特性を活用したエコ草刈りで、帰還困難区域の土地を改善・保全する。牛が行けないところは、人力草刈りで、解除された地区の土地の草を刈り、保存調整・運搬、そこの草刈り隊たちへの餌として給与する。

事業モデル図



プロジェクトの特徴（社会的意義・波及効果・新規性等）

地域：農地保全・野生動物や病害虫の抑制・火災や犯罪の予防・地域貢献型の緩やかな省カワークの創出
日本：荒廃農地解消や国内飼料自給率UPの省カモデル・災害対応ノウハウ・福島と日本のイメージUP
海外：環境破壊阻止・途上国食料自給率向上・次世代モデル

進める上での課題・協力をいただきたいこと

- ・ 事業を推進する仲間を募集しています。
- ・ クラウドファンディングや里親・オーナー制度等、参加者募集中
- ・ ①IT化、②電気や水等設備の効率化、③アナログな作業環境の省力化の工夫について、アイデアや技術者を募集しています。

不登校の子供達の「居場所」をいわき市に作る

～子どもも親も笑顔で過ごせる場所作り

佐藤 雪江

<プロジェクト立案に至った企画者の思い・背景>

私自身の子供達3人の不登校をきっかけに、不登校に悩み辛い思いを抱えてしまう子供達と家族のサポートが出来ないかと考えるようになりました。そこで、学校には行けなくても昼間に活動できる場所や親の悩みが話せる場所を作り、子供達が自信を取り戻し家族も不安を解消出来ることで、不登校でも笑顔で毎日を過ごせる家族が増えることが私の願いです。

社会的背景・課題

さまざまな問題を抱え不登校になる子供達が全国でも年々増加している。平成28年12月に「教育機会均等法」が公布され【多様な学びの場】が求められているがいわき市を含む浜通り地方にはフリースクールのように学校以外で通える場所がなく家庭内で問題を抱えこんでしまっている。

ターゲット・ニーズ（具体的事例等を交えて）

- 不登校の子供達…学校や家庭以外での活動の出来る場所
- 不登校の家族…子供の悩みを相談や共有出来る場
- 地域に住む人達…不登校への関心と理解を深める

将来的なビジョン・目的・目標

- ・子供達が日中活動の出来る場所が学校以外にもあることで**自信を持つ**ことが出来る。
- ・子供が元気に過ごせることで保護者も**安心**が出来る。
- ・負のイメージが強い不登校に対して地域での**関心と理解**が深まる。

解決策・事業概要

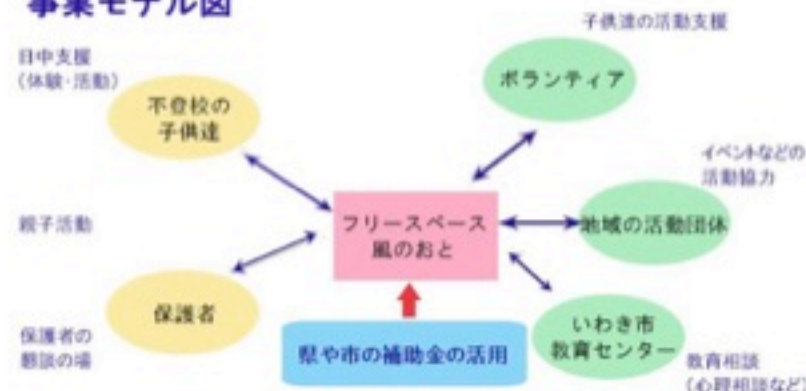
日中支援【フリースペース「風のおと」】

- ・子供がやりたいことを中心に自然体験やボランティア活動
- ・親子活動などを行う。

保護者の懇談の場【親カフェ「ほっと」】

- ・月1回のカフェスタイルの話し合いの場
- ・不登校問題に関心のある人の参加も呼びかける。

事業モデル図



プロジェクトの特徴（社会的意義・波及効果・新規性等）

- ・不登校の子供達が通える場所が出来ることにより活動の幅が広がる。
- ・親子活動の機会を作ることで親子の関係を深めることが出来る。
- ・フリースペースを地域にも活用してもらうことにより地域社会で不登校の子供達への関心や理解を深めることが出来る。

進める上での課題・協力をいただきたいこと

- ・協賛者やスポンサー
- ・サポーター
- ・一緒に活動してくれる人
- ・経験談を話してくれる方（子供・家族）

“福島は今”を世界に伝えるプロジェクト！ 変わりゆく街並みをドローンで記録したい！

メンバー：平田雅之

ふくしま
NOW

このプロジェクトで実現したいこと①

変わりゆく被災地の町並みを撮影・アーカイブ化する。

原発被災地では家屋の解体が進むと同時に、中間貯蔵施設の新設などにより、町並みがどんどん変わりつつあります。かつてあった住宅は取り壊され、更地になったり、別の建物が建てられたりしています。しかもそれは、開発によってではなく、原子力発電所の事故に端を発するものです。

私たちは、今のこの町並みを映像資料として記録・アーカイブ化することで、原子力発電所の事故によって何が起きたのかを語り継ぐ材料としたいと考えています。



解体工事前イメージ
（富岡町：夜ノ森地区）



解体工事後イメージ
（楢葉町：竜田駅周辺）

このプロジェクトで実現したいこと②

帰還困難区域の状況を撮影・アーカイブ化する。

現在、帰還困難区域は積算線量が高すぎて、原則、誰も立ち入ることができません。帰還困難区域が今どうなっているのかを知る機会は極めて限られています。

しかし、私たちはドローンを使って上空から帰還困難区域の様子を撮影することができます。今、人々が立ち入ることができない区域がどうなっているのか、何が起きているのかをドローンを使って撮影し、日本全国はもちろん、世界中に原発被災地の今を伝えていきたいと考えています。



富岡町：夜ノ森地区

このプロジェクトで実現したいこと③

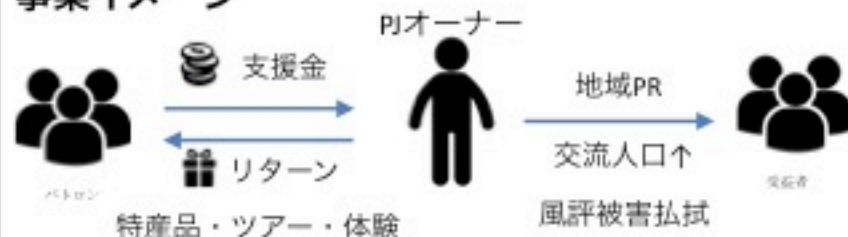
“福島は今”を伝える発信活動をしていきたい！

- 1、県外の方々に向けて福島のことをいわき市など浜通り地区の現状を正しくお伝えすること。
- 2、この地域で復興を目指し、あるいは、新たな活動を展開しようとしている方々の姿を日本全国、あるいは世界中の皆さんにご紹介すること。

その結果、多くの方々がこの浜通り地区に興味・関心を寄せていただき、この地区の現状をさらに詳しく知っていただいたり、足を運んでいただく機会になれば、と思っています。福島浜通り地区は決して原発事故のために終わってしまった地域ではなく、再び活気を取り戻そうとしている地域です。そのことを、今回のプロジェクトを通じてお伝えしたいのです。



事業イメージ



活動資金はクラウドファンディングで支援依頼を予定

後援

楡葉町 教育委員会 富岡町 教育委員会
浪江町 教育委員会 一般社団法人RCF